

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月24日現在

機関番号：17102  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2009～2011  
 課題番号：21320159  
 研究課題名（和文） 公共性とガバナンスからみた近・現代社会の空間編成に関する研究

研究課題名（英文） A Study on Spatial Organization of Modern Society from the publicness and Governance

研究代表者  
 高木 彰彦（TAKAGI AKIHIKO）  
 九州大学・人文科学研究院・教授  
 研究者番号：90197054

研究成果の概要（和文）：公共性とガバナンスに注目して、地理思想史研究、社会理論研究、経験的研究の観点から、近・現代社会の空間編成について検討を行った。その結果、地理思想史研究、先端理論研究、公共空間と公共性に関する研究においては進捗がみられたものの、ガバナンス研究においてはあまり成果がみられなかった。これらの成果の一部は『空間・社会・地理思想』13(2010)・14(2011)・15(2012)において公表した。

研究成果の概要（英文）：This study investigated characteristic of the spatial organization in modern and present society from perspectives of geographical thought studies, social theory studies and experimental studies with special attention to the public and the governance. As a result, studies on geographical thought, advanced theory studies and public space studies made progress. However, studies on the governance did not make advanced. Some results of this study are published in the journal of Space, Society and Geographical Thought, No.13-15.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2010年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2011年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
年度			
総計	13,400,000	4,020,000	17,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：公共空間、ガバナンス、空間編成、社会理論、地理思想史

1. 研究開始当初の背景

本研究に先立ち、平成18-20年度に、科研費による基盤研究(B)「グローバル化時代における公共空間と場所アイデンティティの再編」を行った。本研究はこの研究の延長上にあり、前研究の成果を踏まえて、公共空間と場所アイデンティティとの関係の再編について、近・現代社会の空間へと範囲を広げるとともに、権力とガバナンスという観点からの考察を行おうとした。

本研究組織は、1978年以来の伝統を持つ地理思想史および社会理論に関する科研グループの流れを継承するもので、研究分担者および連携研究者の多くが、これまでの科研費による研究に継続的に参加し、地理思想史および欧米における社会理論の展開に最も造詣の深い地理学者のメンバーである。こうした豊富な研究蓄積を踏まえて、それぞれの研究メンバーが、それぞれのスタンスで近・現代の空間編成について取り組むことにした。

## 2. 研究の目的

本研究は、公共性とガバナンスのあり方、およびその近・現代社会における空間編成を、思想史・理論・経験的研究の三位一体の視座を通して記述、究明し、現代社会は今後それらをどのように再構築すべきなのかを構想するための基礎的視点と、実践的諸課題の解決に向けての経験的事例とを、国内外の隣接諸科学と社会に提示することを目的とした。

## 3. 研究の方法

上記の目的遂行のために、本研究では、(1)社会・地理思想史研究、(2)先端理論研究、(3)公共空間と公共性、(4)権力とガバナンスの4つの研究班を設けて研究課題に取り組んだ。表中、下線を施した研究者は各研究班の責任者を示している。

研究班	研究メンバー
①社会・地理思想史研究班	<u>遠城</u> 、島津、森、源
②先端理論研究班	<u>山崎</u> 、中島、今里、山野(研究協力者)
③公共空間と公共性研究班	<u>堤</u> 、大城、福田、神田、杉山
④権力とガバナンス研究班	<u>高木</u> 、山本、水内、香川、加藤

(1)「社会・地理思想史研究班」では、思想的視点から「公共空間」「場所アイデンティティ」「ガバナンス」等の概念の意味を問い直す。特に近代日本における文化の「翻訳」という体験を踏まえ、より普遍的な公共性とガバナンス概念の再構築を目指す。

(2)「先端理論研究班」では、新しい文化・社会地理学の方法と視座に関する理論的研究を行う。特に空間スケールの理論化、権力と公共空間との関係、場所と文化・経済の接合等の検討を通じて、公共性とガバナンスの批判的知の構築を目指す。

(3)「公共空間・公共性研究班」では、変動著しい都市社会・空間をフィールドにして、「公共空間」の現在の状況について批判的に検討する。ホームレス問題や人種・民族問題、行商・露天商の撤去問題として顕在化している、都市における公共空間の位置づけと役割に関する問題を、日本、アジア、ヨーロッパ都市の事例研究に基づきつつ明らかにする。

(4)「権力とガバナンス研究班」では、ナショナリズムと抵抗のせめぎあいの場所、記憶と歴史をめぐる表象の場所、新たな文化的実践の生成と場所アイデンティティのねじれ、ナショナルな「場所」の再構築といった問題

群を、基地問題や国境地域などのフィールド調査の成果に基づいて解明する。

## 4. 研究成果

### (1)研究成果の概要

3年間の研究期間で、社会・地理思想史、先端理論研究、公共空間と公共性の研究班を中心として多大な成果をあげることができた。しかし、権力とガバナンス研究班については、権力に関する研究は進展したもののガバナンスに関する成果が少なく、当該分野における取り組みが今後の検討課題として残された。

### (2)研究班ごとの研究成果

①社会・地理思想班では、近代日本における空間編成について、伝染病を手がかりとして空間編成の諸相を明らかにすることができた(論文①)。また、郷土をキーワードとしてその初等教育における出現の起源について新たな知見を得たし(論文③)、筆名の命名原理に関する新たな知見も得られたし(論文⑥)、雑誌『旅』を丹念に読み解くことにより、旅行をとという切り口から近代日本の空間編成の特徴を明らかにした(図書⑤)。さらに、兵要地誌を手がかりとして陸軍士官学校教育における地理的事項の特色について書誌学的な観点から、その概要を明らかにした(論文⑩⑪⑫)。

②先端理論研究班では、欧米の文化・社会・政治地理学における先端理論のいくつかを読み、その翻訳を『空間・社会・地理思想』に掲載した(論文④⑧⑨⑬⑭⑮⑰⑱)。また、アンリ・ルフェーブルに関する最新の論考も表れた(論文⑭)。

③公共空間と公共性研究班では、日本におけるいくつかの都市で事例研究を行った。具体的には、観光やエコ・ツーリズムという切り口からの公共空間と公共性についての検討(著書①②論文⑥)、ホームレスなど脆弱な人々に視点をあてたインナーシティ再生の試み(論文⑩)、沖縄の基地をめぐる公共性と公共空間の問題(論文⑦)、農村の空間編成におけるソーシャル・キャピタルの重要性を指摘した研究(論文⑧)など、豊富な成果をあげることができた。

④権力とガバナンス研究班では、衆議院総選挙を例として、選挙区再編成後の政党別得票率の変化について検討し、現代日本における政治空間の編成にみられる特徴を明らかにした(論文②)。このほか、上記の成果のうち、沖縄における軍事基地の問題(論文⑥⑦)や兵要地誌に関する成果(論文⑬⑭)、近代都市における政治状況に関する研究(論文⑨)も権力に関わる内容ではあるが、本格的にガバナンス論に踏み込んだ研究成果は得られなかった。今後の課題としたい。

(3)雑誌『空間・社会・地理思想』の刊行

本研究の研究成果の一部を、毎年、『空間・社会・地理思想』第13-15号として刊行した。

#### (4) 国際学会での研究発表

研究メンバーが積極的に国際学会に参加し、研究成果を発表することも本研究の目的の一つである。この点についての成果を列記すると、2009年度には、第14回歴史地理学の国際会議、世界政治学会などで延べ10人が研究発表を行った。2010年度には、国際地理学連合地域会議、米国地理学会第106回大会などで延べ8人が発表した。2011年度には、第6回批判地理学者会議、第6回東アジアオルタナティブ地理学者会議などに延べ7人が発表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計22件)

- ① 遠城明雄、近代都市と伝染病—門司港におけるコレラ流行—、史淵、査読無し、147、2010、199-238
- ② 高木彰彦、第45回衆議院総選挙結果の地理的特徴について、史淵、査読無し、147、2010、235-251
- ③ 島津俊之、郷土概念と初等地理教育の偶有的結合—明治19年「小学校ノ学科及其程度」をめぐって—、空間・社会・地理思想、査読無し、13、2010、19-37
- ④ 森 正人 (翻訳)、(ベン・アンダーソン) 希望の生成と現存—情動の理論に向けて—、空間・社会・地理思想、査読無し、13、2010、75-94
- ⑤ 香川雄一、工場の立地と移転にみる景観の意味づけの変化、国立歴史民族博物館研究報告、査読有り、156、2010、97-121
- ⑥ 中島弘二、沖縄における自然保護と基地反対運動、地理科学、査読有り、65、2010、231-341
- ⑦ Takashi Yamazaki, The historical representation of place in the military base town of Koza: the “reassessment” of US military presence as a developmental resource, Journal of Urban Culture Research, 査読有り、2010、190-199
- ⑧ Kenji Tsutsumi, Social capital in rural studies in Japan: an examination of actual forms of social capital especially in rural Japan, Social Capital and Development Trends in Rural Areas, 査読有り、6、2011、129-139
- ⑨ 遠城明雄、地方都市の政治状況に関する研究ノート—1889年～1912年の仙台市—、史淵、査読無し、148、2011、69-100
- ⑩ 大城直樹 (翻訳)、(デレク・グレゴリー) ラカンと地理学、空間・社会・地理思想、14、査読無し、2011、103-123

⑪ 遠城明雄 (翻訳)、(ファブリス・リポール) 空間を領有すること…あるいはその領有に異議を申し立てること?—現代社会運動の一視点—、空間・社会・地理思想、査読無し、14、2011、69-81

⑫ 島津俊之、経験とファンタジーのなかの和歌の浦—田山花袋「月夜の和歌の浦」を読む—、空間・社会・地理思想、査読無し、14、2011、41-67

⑬ 源 昌久、陸軍大学校における科目「兵要地理」(陸)に関する一研究、空間・社会・地理思想、査読無し、14、2011、3-16

⑭ 福田珠己、棚橋源太郎の博物館論と郷土の具体化、空間・社会・地理思想、査読無し、14、2011、17-29

⑮ 加藤政洋、アンリ・ルフェーブの中核性概念に関するノート、空間・社会・地理思想、査読無し、14、2011、31-39

⑯ 加藤政洋 (翻訳)、(ドリーン・マッシー) ウィゼンショウに住まう、空間・社会・地理思想、査読無し、14、2011、83-90

⑰ 杉山和明 (翻訳)、(ニコラス・ファイフェ) ゼロ・トレランスは極限の監視なのか—後期近代都市における逸脱、差異、犯罪統制—、空間・社会・地理思想、査読無し、14、2011、91-102

⑱ 今里悟之、長崎県平戸島における筆名の命名原理と空間単位—認知言語学との接点—、地⑮理学評論、査読有り、2012、106-126

⑲ 森 正人 (翻訳)、(マイク・クラング、デイヴィア・トーリア=ケリー) 国民、人種、そして情動—国民的遺産の場における感覚と情動—、空間・社会・地理思想、査読無し、15、2012、77-91

⑳ 山崎孝史、五十嵐大輝、黒田浩朗、早田有沙、堀之内龍一、吉川 絢 (翻訳)、(シャロン・スーキン) パブリックアート—ニューヨーク創造地区のライフサイクルをたどる、空間・社会・地理思想、査読無し、15、2012、109-118

㉑ 水内俊雄、脱ホームレス支援から学ぶ日本「社会住宅」の現状とその可能性—ポストホームレス自立支援法と住宅のナショナルミニマム、ホームレスと社会、査読無し、5、2012、62-71

㉒ 源 昌久、陸軍士官学校における科目「兵地学」に関する一研究—明治期を中心に—、淑徳大学研究紀要、査読無し、46、2012、67-85

[学会発表] (計14件)

① 山本健兒、衰退都市地区における商店街の変容とローカル経済—ドイツ、デュースブルク市マルクスロー地区の事例—、日本地理学会2009年度秋季学術大会、2009年10月25日、琉球大学

② Akihiko Takagi, Recent changes in borderland area facing a rapid growth of

foreign tourists: the case of Tsushima island, Japan, International Geographical Union Regional Conference, 2010年7月13日、ダンパノラマホテル (イスラエル)

③ Takashi Yamazaki、The production of territorial dispute from internationality: the U. S. and the Senkaku Islands under the Cold War, International Geographical Union Regional Conference, 2010年7月13日、ダンパノラマホテル (イスラエル)

④ Tamami Fukuda、Embodiment of homeland (Kyodo) in museums in modern Japan: Gentaro Tanahashi and his unfinished project, International Geographical Union Regional Conference, 2010年7月13日、ダンパノラマホテル (イスラエル)

⑤ Masato Mori、Generative religious meanings, International Geographical Union Regional Conference, 2010年7月14日、ダンパノラマホテル (イスラエル)

⑥ 遠城明雄、近代都市と伝染病—明治期の門司港におけるこれら流行をめぐる—、福岡地理学会、2011年1月30日、福岡大学セミナーハウス

⑦ 香川雄一、アジアのメガシティにおける都市環境の史的分析のための地形図収集、日本地理学会 2010年度春季学術大会、2011年3月30日、明治大学

⑧ Kenji Tsutsumi、Regional Science and New Economic Geography in the Academia of Japanese Economic Geography, The 3<sup>rd</sup> Global Conference on Economic Geography, 2011年5月21日、COEX、ソウル (韓国)

⑨ Akio Onjo、Sanitary surveillance and the control of urban space in modern Japan, 1890-1910, The 6<sup>th</sup> International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日、フランクフルト大学 (ドイツ)

⑩ Naoki Oshiro、Searching Okinawan identity in the era of new geopolitics in the East Asia, The 6<sup>th</sup> International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日、フランクフルト大学 (ドイツ)

⑪ Koji Nakashima、Re-appropriation of nature in the grassroots antiwar movement: towards alternative bio-politics, The 6<sup>th</sup> International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日、フランクフルト大学 (ドイツ)

⑫ Toshiyuki Shimazu、From topophilia to imperial patriotism: the homeland education movement in wartime Japan, The 6<sup>th</sup> International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日、フランクフルト大学 (ドイツ)

⑬ 神田孝治、与論島観光におけるイメージの変容と現地の対応、人文地理学会大会、2011

年11月13日、立教大学

⑭ Toshio Mizuuchi、The new housing provision for low-income earner as a Japanese style of “social housing”, The 6<sup>th</sup> East Asia Regional Conference on Alternative Geographers, 2012年2月14日、クアラルンプール大学 (マレーシア)

〔図書〕 (計9件)

① 神田孝治、他、ナカニシヤ出版、観光の空間—視点とアプローチ、2009、284

② 神田孝治、他、ナカニシヤ出版、レジャーの空間—諸相とアプローチ、2009、270

③ 水内俊雄 (編集代表)、九州大学・大阪市立大学、空間・社会・地理思想 13、2010、122

④ 山崎孝史、ナカニシヤ出版、政治・空間・場所—「政治の地理学」にむけて—、2010、210

⑤ 森 正人、中央公論社、昭和旅行誌—雑誌『旅』を読む、2010、278

⑥ 堤 研二、九州大学出版会、人口減少・高齢化と生活環境—山間地域とソーシャル・キャピタルの事例に学ぶ—、2011、295

⑦ 水内俊雄 (編集代表)、九州大学・大阪市立大学、空間・社会・地理思想 14、2011、123

⑧ 加藤政洋、フォレスト、那覇—都市の戦後復興と歓楽街—、2011、240

⑨ 水内俊雄 (編集代表)、九州大学・大阪市立大学、空間・社会・地理思想 15、2012、118

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高木 彰彦 (TAKAGI AKIHIKO)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授  
研究者番号：90197054

(2) 研究分担者

山本 健兒 (YAMAMOTO KENJI)  
九州大学・大学院経済学研究院・教授  
研究者番号：50136355  
遠城 明雄 (ONJO AKIO)  
九州大学・大学院人文科学研究院・教授  
研究者番号：00243866  
堤 研二 (TSUTSUMI KENJI)  
大阪大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：20188593  
山崎 孝史 (YAMAZAKI TAKASHI)  
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：10230402  
島津 俊之 (SHIMAZU TOSHIYUKI)  
和歌山大学・教育学部・教授  
研究者番号：60216075  
大城 直樹 (OSHIRO NAOKI)  
神戸大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：00274407  
森 正人 (MORI MASATO)  
三重大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10372541

(3) 連携研究者

源 昌久 (MINAMOTO SHOKYU)  
淑徳大学・社会学部・教授  
研究者番号：80104826  
水内 俊雄 (MIZUUCHI TOSHIO)  
大阪市立大学・都市研究プラザ・教授  
研究者番号：50136355  
中島 弘二 (NAKASHIMA KOJI)  
金沢大学・人間科学系・准教授  
研究者番号：90217703  
福田 珠己 (FUKUDA TAMAMI)  
大阪府立大学・人間社会学部・准教授  
研究者番号：80285311  
今里 悟之 (IMAZATO SATOSHI)  
大阪教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：90324730  
香川雄一 (KAGAWA YUUCHI)  
滋賀県立大学・環境学部・准教授  
研究者番号：00401307  
加藤 政洋 (KATO MASAHIRO)  
立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号：30330484  
杉山和明 (SUGIYAMA KAZUAKI)  
流通経済大学・経済学部・准教授  
研究者番号：90564930  
神田 孝治 (KANDA KOJI)  
和歌山大学・観光学部・准教授  
研究者番号：90382019

(4) 研究協力者

山野 正彦 (YAMANO MASAHIKO)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：20094493